

10/25 日本航空大学校北海道と岩塚製菓（株）
こども食堂に「くもっと」を寄付



日本航空大学校北海道と岩塚製菓（株）が、共同開発したお菓子「くもっと」1,000袋を市内7か所のこども食堂に寄付しました。「くもっと」は、同社の商品「ふわっと」をベースに学生のアイデアを取り入れて開発した新商品で、空に浮かぶ雲から着想したわたあめ味のお菓子です。この日は日本航空大学校北海道の学生がこども食堂 REST（住吉）を訪問し、子どもたちと交流。「くもっと」が渡されると、「見たことある!」と喜びの声が上がりました。こども食堂 REST の代表を務める伏木 千幸さんは「自分だけで生きていと思わず、地域の人々に支えられていることを実感し、感謝の気持ちを持ってもらえたら」と、子どもたちに対する思いを話しました。

10/24 ゼロカーボンシンポジウム 2024
脱炭素への取り組み議論



千歳市、千歳商工会議所、千歳工業クラブの3者が、「ゼロカーボンシンポジウム 2024」を北ガス文化ホールで開催しました。基調講演では、東京大学の辻 佳子 教授が「地域連携で挑むカーボンニュートラル社会の実現」と題して、脱炭素への取り組みの現状や課題、先進事例について紹介。パネルディスカッションでは横田市長、辻教授、三菱商事（株）の本田 全司郎 氏ら6人の有識者が、カーボンニュートラル実現に向けた課題について議論を交わしました。パネルディスカッションにおいて辻教授は、再生可能エネルギーを利用して製造する「グリーン水素」に着目し、「水素を国内でつくる場合、北海道にとってはチャンス。再生可能エネルギーがたくさんあり、土地も豊か」と話していました。

9/29 ダンスに演奏、お国自慢
ふるさとポケット



ふるさとと千歳を再発見する生涯学習まちづくりフェスティバル「ふるさとポケット」がグリーンベルトで開催されました。当日は快晴となり、県人会が郷土料理や特産品を販売するお国自慢物産展や、各種の展示・体験ブースも設けられ、活気に満ちていました。ステージイベントでは、市内の団体がダンスや演奏、パフォーマンスを披露し、会場を盛り上げました。フラダンス教室「マイレ本間フラスクール」は、小学生を中心に華やかな衣装でステージに登場。集まった観客を前に演舞を披露すると、会場は大きな拍手に包まれました。

10/9 行政相談委員 宮本眞弘さん
総務大臣から表彰状



行政相談委員を長年務めた功績から、市内在住の宮本 眞弘さんが総務大臣表彰を受けました。宮本さんは市内に3人いる行政相談委員のひとりで、同職は平成23年に総務大臣から委嘱。以来、13年以上にわたって精力的に活動してきました。10月9日には市役所にて表彰伝達式を開催。北海道管区行政評価局の山路局長から、表彰状と副賞の目録が授与されました。行政相談委員は、年6回開設している定例行政相談所において市民からの相談に対応しているほか、電話相談も受け付けています。相談を考えている方に向けて、宮本さんは「心配事や要望、苦情などがあればお聞かせください。どうすれば解決できるのか、一緒に考えましょう」と呼びかけました。

10/6 千歳市場まつり・農業まつり合同開催
おいしさ・楽しさ直送します



千歳市場まつり・農業まつりが合同で開催され、会場の公設卸売市場は朝早くから多くの来場者で賑わいました。物販・飲食ブースには、安くて質の良い農産物や水産物が所狭しと並び、イクラ丼やマグロのにぎり寿司、うみずめ炭火焼などには長蛇の列が。また、千歳高校と田中製餡（株）のコラボ商品「冷やしかぼちゃたい焼き」が好評を博しました。ステージイベントのマグロ解体ショーでは、榊原 希望さんが華麗な包丁さばきを披露。ショーを終え、榊原さんは「去年よりも見てくれる人が多くてうれしい。魚もすごく良いので、来場者の皆さんに喜んでもらえたら」と話していました。

人々のうごき

《総人口》
97,456人（－89）
男性 49,516人（－54）
女性 47,940人（－35）
《世帯》52,416世帯（－56）
（ ）内は、前月との比較です。

11.1 現在

広報ちとせのおわびと訂正

広報ちとせ 10月号 16ページにて、氏名を誤って記載していました。
誤：野村 美奈子 氏
正：野村 三奈子 氏
おわびして訂正します。

海軍航空隊開隊記念祝賀会

百 ちとせ空港
年物語
手づくりの着陸場から新千歳空港へ
開港 100 年の歴史を振り返る

Vol.19 千歳村の大願成就

海軍航空隊の開隊
千歳航空基地は当初、2本の直角交差する滑走路を整備し供用する計画でした。しかし、列強国の脅威が差し迫り、建設には何よりもスピードが求められたことから、海軍はまず滑走路を1本先行して整備することとしました。

この頃になると、「千歳に吹く風は、年間を通してほぼ南か北の風で、特に4月から10月にかけては南の風が多い」ということが知られるはじめ

千歳村の大願成就
す。飛行機が離着陸するための気象条件のうち、もっとも重要なものの一つが、横風が吹かないこと。このため最初に整備されたのは、北海道鉄道線と平行する南北滑走路でした。

昭和14年10月1日、千歳海軍航空隊が開隊。11月4日には、格納庫にて開隊式典が執り行われました。建設されたばかりの飛行場地区では曲技飛行が披露され、式典の参加者はもちろん、見学に集まった千歳村の人々を魅了しました。

千歳村の大願成就
た、着陸場の永続使用。それが実現した瞬間を目の当たりにした村民たちの感激は、ここに記すまでもないでしょう。